

9)カーネーション、カスミソウ、スターチスの夏秋どり栽培法

道南農業試験場 園芸科、中央農業試験場 園芸部 野菜花き第2科

1.試験のねらい

本道の主要花きであり、移出切花の中心品目でもあるカーネーション、カスミソウおよびスターチスの栽培法についての試験を実施し、府県の端境期である夏から秋にかけて採花するための基本的な作型の栽培指針を明らかにしようとした。

2.試験方法

それぞれの品目について、は種期、定植期、栽植密度、仕立法などについて検討した。

3.試験の成果

1)スプレーカーネーション

定植期は5月中旬、6月上旬の2期について検討し、5月中旬定植で安定した採花が可能であった。仕立法では4本仕立は3本仕立に比べると、採花率がやや劣るが、a当り採花数は多く、栽培的には有利と思われる。また電照は初期生育を促進させることに加えて、生育後半でも採花促進効果が期待できる。以上より、夏秋どりの作型を表1としてとりまとめた。

2)シュコンカスミソウ

栽植密度(2.5~4.4株/m²)、仕立本数(3~5本)は作期により傾向を異にし、早い作期(5月30日仮植)では判然としなかったが、遅い作期では明らかに狭い株間区、あるいは仕立本数の多い区で採花目が遅れ、品質も劣った。また定植苗の種類により、生育開花に10日以上之差を生じた。以上より無加温ハウスを基本とした夏秋どりの作型を表2としてとりまとめた。

3)スターチス・シヌアータ、ポンジェリー

いずれの試験も、処理の差と同時に品種間の差が大きかった。は種時期が3月から4月、5月と遅くなるに従い、採花量は明らかに低下した。5月は種でも催芽種子の低温処理(1~3℃、30日間)により、採花量が増加した。以上より無加温ハウスを基本とした夏秋どりの作型を表3としてとりまとめた。

表1 スプレーカーネーション夏秋どりの作型

作期	採花目標	定植期	5月		6月		7月		8月		9月		10月			
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
I	8~9月	5月中旬	○	△	————— (保温, 電照)											
II	9~10月	6月上旬			○	△	————— (保温, 電照)									

注 ○:定植, △:摘芯, ■:主採花期間

(1)栽植密度2664~2552株/a(15~20×10cm)、4本仕立を目標とする。

(2)未採花防止のために保温15℃、電照(16h,20~40W/3.3m²)40~60日間

表2 シュッコンカスミソウ夏秋どりの作型

作期	採花目標	定植期	5月		6月		7月		8月		9月		10月	
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
I	8月上旬	5月下旬							■					
II	8月下旬	6月上旬			○	△				■				
III	9月中旬	6月下旬			◎									
		7月中旬			○	△					■			
IV	10月上旬	7月上旬					○	△						
		7月下旬						◎						■

注 ◎：ポット苗定植、○：砂上苗定植、△：摘芯、■：採花目標時期

- (1)「ポット苗」：摘芯が完了している苗、大苗；「砂上苗」：挿芽、十分に発根した苗、小苗。
- (2)栽植間隔(条間、株間)は40cm程度、通路は120~130cm程度確保する(300株/a前後)
- (3)仕立本数は3~4本とするが、作期IVでは3本が望ましい。

表3 スターチス・シヌアータ、ボンジェリー夏秋どりの作型

作期	採花目標 (採花始)	供試品種	は種期	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
				I	7月上旬	B, C	3月中旬			◎	
II	8月上旬	A	3月上旬		○	◎				■	
		B, C	3月下旬		○	◎				■	
III	9月上旬	A, B	5月上旬			▲	○	◎			■
		C	5月上旬				○	◎			■

注 ○：種、◎：定植、■：主採花期間、▲：催芽種子の低温処理

- (1)供試品種 A：スヌアータ中晩生種、B：シヌアータ早生種、C：ボンジェリー種
- (2)育苗温度には留意する。夜温5~6℃を目標とし、8℃以下の夜温を確保する。
- (3)畦幅120~130cm、2条、条間40cm、株間は品種A、Bで36~40cm、Cは40~45cm程度。